

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①メンターチームの機能を充実させ、互いの授業を見合うことで授業力の向上を目指す。 ②学年研で授業の進め方、評価の仕方を十分に共有して進めることを目指す。 ③校内授業研や小中一貫授業研究会で積極的に授業を公開し授業内容の充実を努める ④よりの確かな指導を行うために、少人数指導を徹底し効果的な学習を目指す。	メンターチームを計画的に行い、その時期に応じた内容を具体的に取り入れることで、即利用できるような進め、若手職員が工夫した展開をすることができた。他都市からの職員が横浜の取り組みを理解し、同じ目的でスタートできるよう、主幹教諭を機能させ、丁寧な支援をすることで小中一貫教育をすすめることができた。	C
豊かな心	①学校保健委員会を一つの取組として、自他のよいところ探しをお互いすることで自己肯定感の向上を目指す。 ②学級目標に人権尊重を踏まえ、発達段階に合わせて常に意識するよう指導する。 ③六年生の自主的なあいさつ運動を全職員で推進し『自分からあいさつする子』を育てる。	年に2回の学校保健委員会を保健委員会の活動の中心として、課題と成果が目に見えるように全校児童や保護者に伝えることで、発達段階に応じた指導をすることができた。自分たちが自主的に取り組むことで、自己肯定感が高まったと考える。あいさつ運動は十分に定着し、小中合同のあいさつ運動が定期的に展開できた。	B
健やかな体	①体育集会での取り組みで、個々の目標やクラス目標を明確にして協力して目標達成に取り組む子どもの育成を目指す。 ②新体力テストの結果をもとに、児童一人ひとりが個々の目標を定め実践する。	元気委員会を中心に、年間を三つに分けて、大縄、短縄、大縄と各クラスや個人で目標を決めて意欲的に取り組むことができた。月に3回の体育集会が定着し、児童が自主的に取り組む姿が見られた。	B
特別支援教育	①特別支援教育部署を必要に応じて開催し気になる児童についての共通理解を図る。 ②スクールカウンセラーや区役所・児童相談所など関係機関と定期的な連携を取りながら、児童一人ひとりに適切な支援をするための方法を探る。 ③ユニバーサルデザインに関する研修を充実させ、誰にも必要な支援を心掛ける。	各機関と連携を取り、丁寧に対応することができた。特別支援コーディネーターを中心に、それぞれ担任がアンテナを高く、児童の姿容を見逃さないよう、チームとして取り組むことに尽力し、児童の特性を十分に理解して対応することができた。壁のない教室環境を理解し、必要に応じてパーテーションなどを利用した。	B
児童生徒指導	①日々児童の状況を確認し、職員全体で共有することで問題の未然防止に努める。 ②児童の課題について原因を追究し児童の心に寄り添った、迅速かつ丁寧な対応を図る。 ③生活安全課、児童相談所、県警少年保護センターなどの機関と密な連絡を取り、必要に応じた対応ができるよう努める。	児童支援専任の役割を明確にし、連絡、相談、報告の迅速化と、初期対応の大切さを職員に十分に周知した。しかし、全職員がその重要性を熟知していないことがあり、たびたび繰り返し指導する場面もあった。各機関との連携は十分に取ることができたので、来年度に向けてさらに体制を整える必要がある。	C
幼保小連携	①年度当初に一年間の連携計画を立てて、行事などのすり合わせをすることで、要所要所で互いを見とり十分な情報を得ることに努める。 ②就学前に近隣の保育園や幼稚園と密に情報交換し、特に支援が必要な児童についての情報を共有することで小一プログラムの解消に努める。	年度当初に、連携する3園と年間計画を立ててお互いの行事などを熟知した上で、交流実家格を立て、実施することができた。インフルエンザ等の流行で、やむなく中止した計画もあったので、来年度はそれも視野に入れた計画が必要であると考えた。園と小学校の関係がかなり近づいて、より良い関係が築けた。	B
道徳教育	①年間計画に則り、学年ごとの指導計画を立て、計画的に授業を展開し研究を続ける。 ②資料や掲示物などを使用しやすく保管しいつでもたでも利用できるような工夫する ③学年便りに「道徳コーナー」をつくり、学校での取組を家庭に伝え連携した指導を試みる ④道徳部を中心に研究に邁進し、学年研などでフィードバックをする。	来年度に向けて、カリキュラム作りを進め、各学年ごとに年間計画を立てた。昨年度まで重点研究で取り上げ、授業研を繰り返してきたことをもとに、より良い成果を上げることができた。学年便りの「道徳コーナー」や職員室の「道徳の宝箱」の活用も定着し、今まで作り上げたものを上手に使うことができた。	B
人材育成・組織運営	①メンターチームを組織的に授業研究を行うことで学校全体で指導力の向上を図る ②計画的に校内研修を行い、コンプライアンス、危機管理や児童指導・保護者対応など初期対応の大切さを伝え、常に丁寧な対応をすることを意識させる。 ③教務部が人材育成に積極的・主体的に取り組めるように意識づけ、指導する。	教務部会、主幹会の意識を高め、組織的に人材育成に臨むことができた。経験が浅い職員はそれぞれに多くの学びをすることができ、来年度の課題を自覚することができた。さらに、教育公務員としての自覚を持ち、意識して職務に当たるよう育成していく。	C
ブロック内相互評価後の気付き	ブロックが変わって2年目となり、互いの授業を見合うことでつながりを深めることができた。物理的な課題はあるが、それぞれの状況に合わせて、互いのできることを増やしていけることが必要である。今年度は人権についてもブロックで取り組み、福祉施設などで研修することにより人権意識が高まったと思う。来年度に向けて、児童生徒の交流はもとより、職員間の交流についてもできることを進めていく。		
学校関係者評価	授業や行事など、日常的に足を運んでいただき、普段の子どもたちの様子を観ていただいた。オープンスペースの教室環境が、子どもたちの集中力の散漫につながらないか、授業中の雑音が増えないかなどご心配いただいたが、音や歓声が出る授業は、特別教室などを利用する様子を観ていただくことで、ご理解いただくと共に、壁のないことを活用した学年での取り組みや、異学年交流の様子を伝えて、特色ある学校づくりの取り組みとしてご理解いただいた。		
学校経営中期取組目標振り返り	初年度としては、それぞれ意識した取り組みができていくが、特に、「確かな学力」についてはまだまだ追いつかない状況である。わかる授業の展開と、家庭学習の定着を中心に、しっかりとした学びを身に付けるための手立てを立てて、全教職員の意識を高めて取り組む必要がある。 また、来年度は小中一貫事業の幹事校なので、今までの蓄積を生かした、さらなる一貫教育を蓄積できるよう全校をあげて取り組みたいと思う。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①年間計画の中にメンター研修会を入れて、確実に毎月の研修を積み重ねるように努める。新採用を含め、経験の浅い職員が安心して業務に当たることできるように、計画的にサポートする。 ②意識して積極的にお互いの授業を見合い、スキル向上に努める。経験値に関わらずに評価し合うことで様々な意見を共有する。	①年間計画の中にメンター研修会を入れて、確実に毎月の研修を積み重ねるように努める。新採用を含め、経験の浅い職員が安心して業務に当たることできるように、計画的にサポートする。 ②意識して積極的にお互いの授業を見合い、スキル向上に努める。経験値に関わらずに評価し合うことで様々な意見を共有する。	B
豊かな心	①自他を尊重する意識を育てるために、学校保健委員会などのテーマに「良いところ探し」を取り入れ、自己肯定感の向上と、他を受け入れる気持ちを大切に育てる。 ②学級目標に人権尊重をふまえ、常に意識して取り組めるよう工夫する。 ③時と場面に合ったあいさつを意識して、積極的にあいさつのできる子どもを育てる。	①自他を尊重する意識を育てるために、学校保健委員会などのテーマに「良いところ探し」を取り入れ、自己肯定感の向上と、他を受け入れる気持ちを大切に育てる。 ②学級目標に人権尊重をふまえ、常に意識して取り組めるよう工夫する。 ③時と場面に合ったあいさつを意識して、積極的にあいさつのできる子どもを育てる。	C
健やかな体	①元気委員会を機能させて、お互いに声を掛け合せて休み時間にたくさん体を動かせるよう意識させる。短縄、長縄を上手に組み合わせ、クラス目標を立てて意欲的に取り組めるよう計画する。 ②新体力テストの結果をもとに、不足しているところを意識して高める。	①元気委員会を機能させて、お互いに声を掛け合せて休み時間にたくさん体を動かせるよう意識させる。短縄、長縄を上手に組み合わせ、クラス目標を立てて意欲的に取り組めるよう計画する。 ②新体力テストの結果をもとに、不足しているところを意識して高める。	C
特別支援教育	①特別支援推進委員会を定期的に関き、各クラスの支援が必要な児童をピックアップし、必要な支援が提供できるように情報共有して取り組む。 ②療育センターや区役所と連携を取りながら児童一人ひとりに適切な支援をするための方策を探る ③ユニバーサルデザインに関する研修をさらに充実させて、全クラスで十分に機能できるよう努める	特別支援推進委員会が十分に機能し、学習の支援が必要な児童や、刺激のない環境の提供が必要な児童など、定期的にピックアップし必要な支援を提供することができた。療育センターと複数回カンファレンスを行うことで、担任ができる支援が見えてきたことと、それを学年で共有することで複数に対応することの有効性を感じた。	B
児童生徒指導	①児童の状況をしっかりと把握し、小さな変化を見逃すことなく即時に対応できるように、常に職員で共有し問題の未然防止に努める。 ②児童の課題を正確につかみ、児童の心に寄り添った迅速かつ適切な対応を図る。 ③各機関との密な連携を取り、必要に応じた対応を取ることができるよう努める。	①児童の状況をしっかりと把握し、小さな変化を見逃すことなく即時に対応できるように、常に職員で共有し問題の未然防止に努める。 ②児童の課題を正確につかみ、児童の心に寄り添った迅速かつ適切な対応を図る。 ③各機関との密な連携を取り、必要に応じた対応を取ることができるよう努める。	B
幼保小連携	①昨年度に基づき、年間行事を摺り合わせ、それぞれの園の事情に応じた連携を取ることができるよう計画し、積極的に関わられるよう意識する。 ②支援専任を中心に、各園に足を運び十分な情報交換をしたうえでスモールステップで取り組み、スムーズに小学校に進学できるように支援する。	児童支援専任が変わり、幼稚園、保育園とのきめ細やかな引き継ぎをすることができないところがあった。年度当初の保育士の訪問や引き継ぎはできたが、来年度に向けての園との交流が計画通りにできなかった。来年度の計画を早急に作り、年間を通じての交流を増やし、スタートカリキュラムに取り入れていきたい。	C
いじめに関する項目	①児童指導部において常に状況を確認し、少しのいじめも見逃さない意識を高く持ち、児童が誰にでも相談しやすい環境づくりを努める。 ②児童との交換ノートや、班ノートなどちょっとしたふやきを捨てるような体制を作り、一人ひとりの児童の状況把握に努める。 ③一人ひとりの人権をみんなで守る視点を常に持つ	毎週行っている教務会で、専任を中心に一週間の状況を確認し、少しのいじめも見逃さない体制を作り実践することができた。学年ごとの連絡ノートで、学年の状況を確認したが、学年による差があり、一定の学年で機能していないところがあった。来年度に過去に比べて、確実に機能させて、さらに安心して過ごせる学校経営をしていきたい。	B
人材育成・組織運営	①すべての教育活動が人材育成の場と捉え、みんなで高め合える職場とする。 ②常に危機感を持って対応する姿勢を持ち、丁寧で適切な初期対応を心がけると共に、報告・連絡・相談を徹底して、学校全体で取り組む姿勢を徹底する。 ③教務会を定期的に関き、教務が中心となった学校運営をすることで、率先した教務会にする。	①すべての教育活動が人材育成の場と捉え、みんなで高め合える職場とする。 ②常に危機感を持って対応する姿勢を持ち、丁寧で適切な初期対応を心がけると共に、報告・連絡・相談を徹底して、学校全体で取り組む姿勢を徹底する。 ③教務会を定期的に関き、教務が中心となった学校運営をすることで、率先した教務会にする。	B
ブロック内相互評価後の気付き	ブロックとしての意識が高まり、互いに交流する機会を作ることができた。小中一貫を強く意識して育てたい子ども像を共有し、子どもサミットを3回開催することで子どもたちがブロックとして意識することができ、共にあいさつ運動を積極的に行い小学生のアイデアを中学生がまとめて、地域の協力を受けて「横断幕」と「のぼり旗」を作ることができた。各校と地域で掲示し、「あいさつパワー全開」の運動が学校と地域で協働して取り組むことができ、実績につながった。今後さらに新たな取り組みを行うことで、9年間の子どもの育ちを共有していきたい。		
学校関係者評価	地域の学校への期待は年々高まっており、常に関心を持って見守っている。今年度はPTA校外委員会の活動の一つとして、登下校の見守り隊の増加、こども110番の家の見直し及び子どもたちへの周知などを熱心に行った。旗振り講習会を学校で行ったこともあり、非常に好評であった。さらに多くの発信をして見守っていただけるよう意識したい。学校で重きを置いているあいさつについては、地域ではまだまだできていないとのことで、非常に残念である。地域でしっかりとあいさつができる子どもの育成にさらに力を入れて取り組む所存である。		
学校経営中期取組目標振り返り	小中一貫教育の幹事校として、創意工夫した取り組みを実践することができた。来年度もブロックとしてみんなで盛り上げ、子どもの意識を高めることでさらに新しい取り組みを実践したい。また、昨年度幹事校として取り組んだ人権教育についても、形を作ることができた。形だけにしないためにさらに意識して取り組んだら行きたい。今年度、今まで本校を作り上げてきた主幹教諭が異動したことで、新たな主幹教諭を中心に根幹から見直し取り組んできた。様々な課題がしっかりと見えてきたので、来年度に向けてさらに改善を志して、新たなメンバーで邁進する必要があると感じている。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①学年研で十分な教材研究をし、指導方法や板書計画などを共有し魅力的な授業を提供する。 ②日々の授業の中で個々の学習を十分に見取り、個に応じた指導や支援を心掛ける。 ③朝自習の時間を有効に利用するために充実した課題の提供をし、即時の評価をする。		
豊かな心	①道徳の授業を充実させ、それぞれの観点から豊かな心の育成に努める。学年便りで毎月の学習内容を保護者に伝えて、家庭との連携を強める。 ②自己肯定感を高めるために、互いによいところを見つけ、賞賛できる集団を作る。 ③「ありがとう」が素直に言える環境作りを努める。		
健やかな体	①体育集会の活動を充実させて、目標達成を意識した取り組みを進める。苦手意識を持たせないような目標設定や、協力して取り組むことの意義を理解させた活動とする。 ②自ら望ましい生活習慣作りができるために、食育や保健の学習など児童が考えて生活するための学習を進める。		
特別支援教育	①個々の児童の状況を共有し、必要な手立てを講じることができるよう特別支援部会を機能させる。適宜、ケース会議を開き、支援するための対策を講じる。 ②療育センターや区役所の連携を進め、専門性の高い支援が整うよう努める。 ③担任の困り感を共有し、十分な役割分担をする。		
児童生徒指導	①問題の早期発見に努め情報共有することで、より適切で迅速な指導や支援をする。 ②児童の家庭環境をできるだけ理解し、保護者に寄り添った指導や支援をすることに努める。 ③警察など各機関と密な連携をとり、必要に応じた対応をする。		
幼保小連携	①年間計画に則り、十分な連携をして交流を図る。 ②園児が小学校に興味と期待を持つことができるための主体的な取り組みとする。 ③児童支援専任が中心となった、先の見通しのある活動にすることで、スムーズなスタートカリキュラムにつなげる。		
いじめに関する項目	①いじめの定義を全職員が周知し、見逃すことなく初期段階で対応する。 ②適宜、教育相談に取り組み、児童の変化や不安を把握できる体制を作る。 ③情報をすべての職員が共有し、常にチームとしていじめを許さない体制を作る。 ④児童が相談しやすい体制づくりに努める。		
人材育成・組織運営	①メンター会議を定期的かつ計画的に行い、メンターとメンチーの関わりを深めるとともに、充実した研修とするための時間確保に努める。 ②主幹教諭の学校経営への参画を率先し、知恵を合わせた特色ある学校づくりを進める。 ③副校長の学校経営力を高めるために、校長を意識した経営への参画を実行する。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			